

令和7年度 東京都小学校体育研究会 実証授業 多様な動きをつくる運動（遊び）領域部会

東京都小学校体育研究会 研究主題

「自ら学び続ける力を、仲間と共に身に付けていく体育学習」
～運動の楽しさや課題解決の喜びを味わうことを通して～



【指導・講評】

東京都教育庁指導部
指導企画課指導主事
菅原 直人 先生

【実証授業】

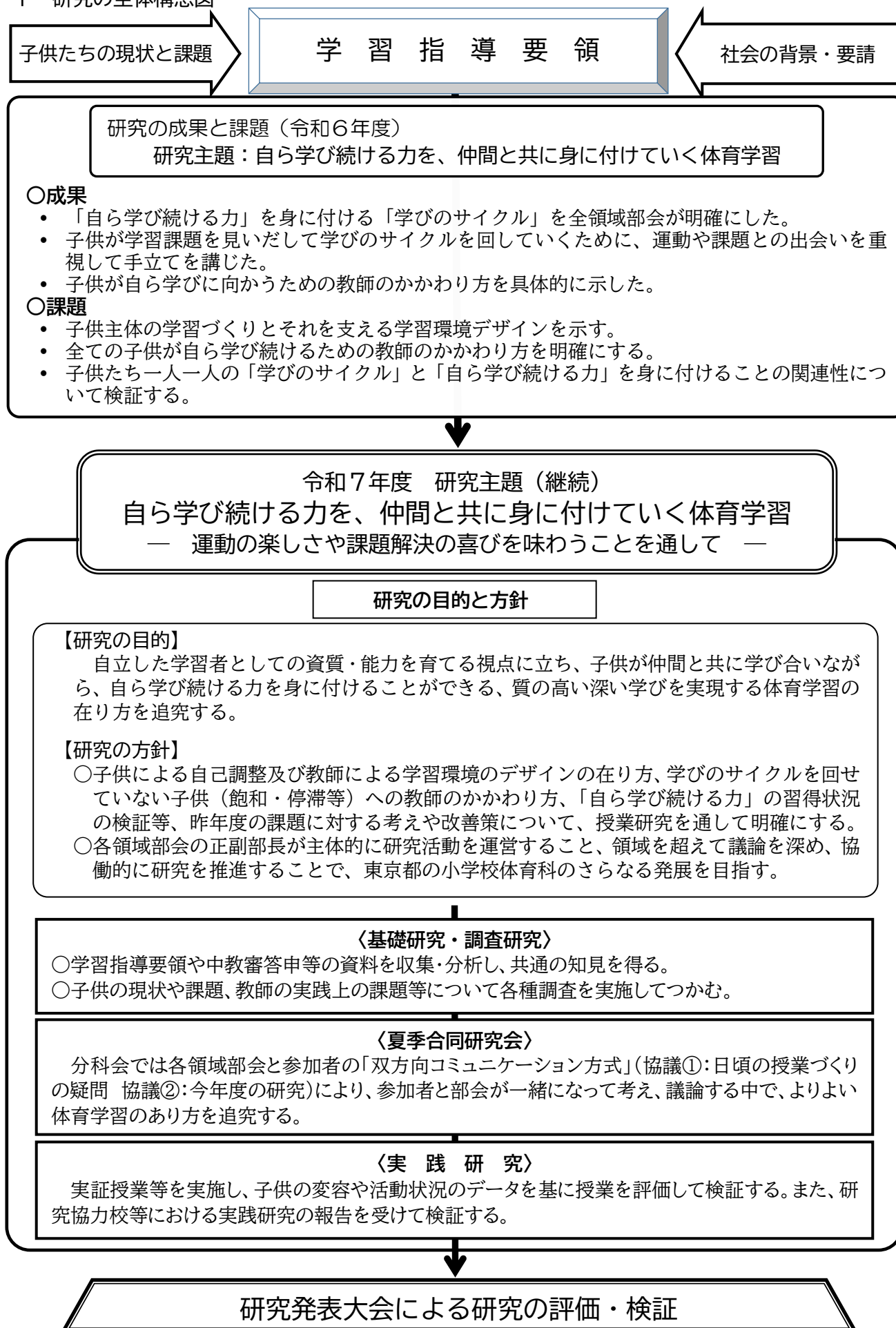
授業日 令和7年11月4日（火）
場 所 葛飾区立よつぎ小学校
最寄駅 京成押上線四ツ木駅徒歩10分
授 業 第4学年 多様な動きをつくる運動
「よつぎプレイパークで運動しよう」
授業者 五十嵐 渉 主任教諭

多様部会のHPはこちらから↓



I 東京都小学校体育研究会の研究

1 研究の全体構想図



2 令和7年度の研究

(1) 研究主題

「自ら学び続ける力を、仲間と共に身に付けていく体育学習

ー運動の楽しさや課題解決の喜びを味わうことを通してー」

(2) 研究主題について

本研究会では、一人一人の子供が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、一人一人の豊かで幸せな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成しようと研究を推進してきた。

昨年度は、「自立した学習者の育成」を学習指導のゴールとして描き、資質・能力を育むことをねらいとして体育の授業づくりを行うこと、学習の中で運動の楽しさや課題解決の喜びを味わうことを通して「自ら学び続ける力」を身に付けていくこと、仲間と共に学び合うことによって、自分一人では達成することができなかった質の高い課題解決につなげることを中心に研究を進めてきた。その結果、「自ら学び続ける力」を身に付けるためには、「学びのサイクル」を子供自身が回せるようにすること、学習の中で「やってみたい」「できるようになりたい」と感じる運動や課題との出会いがあること、子供が自ら学んでいくために、教師がかかわることが必要であることが分かってきた。

また、子供主体の学習づくりとそれを支える学習環境のデザインを示すことや、全ての子供が自ら学び続けるための教師のかかわり方を明確化すること、子供たち一人一人の「学びのサイクル」と「自ら学び続ける力」を身に付けることの関連性について検証すること等の課題も見えてきた。そこで、今年度も「自立した学習者の育成」を目指し、研究主題を、「自ら学び続ける力を、仲間と共に身に付けていく体育学習ー運動の楽しさや課題解決の喜びを味わうことを通してー」として研究を進める。

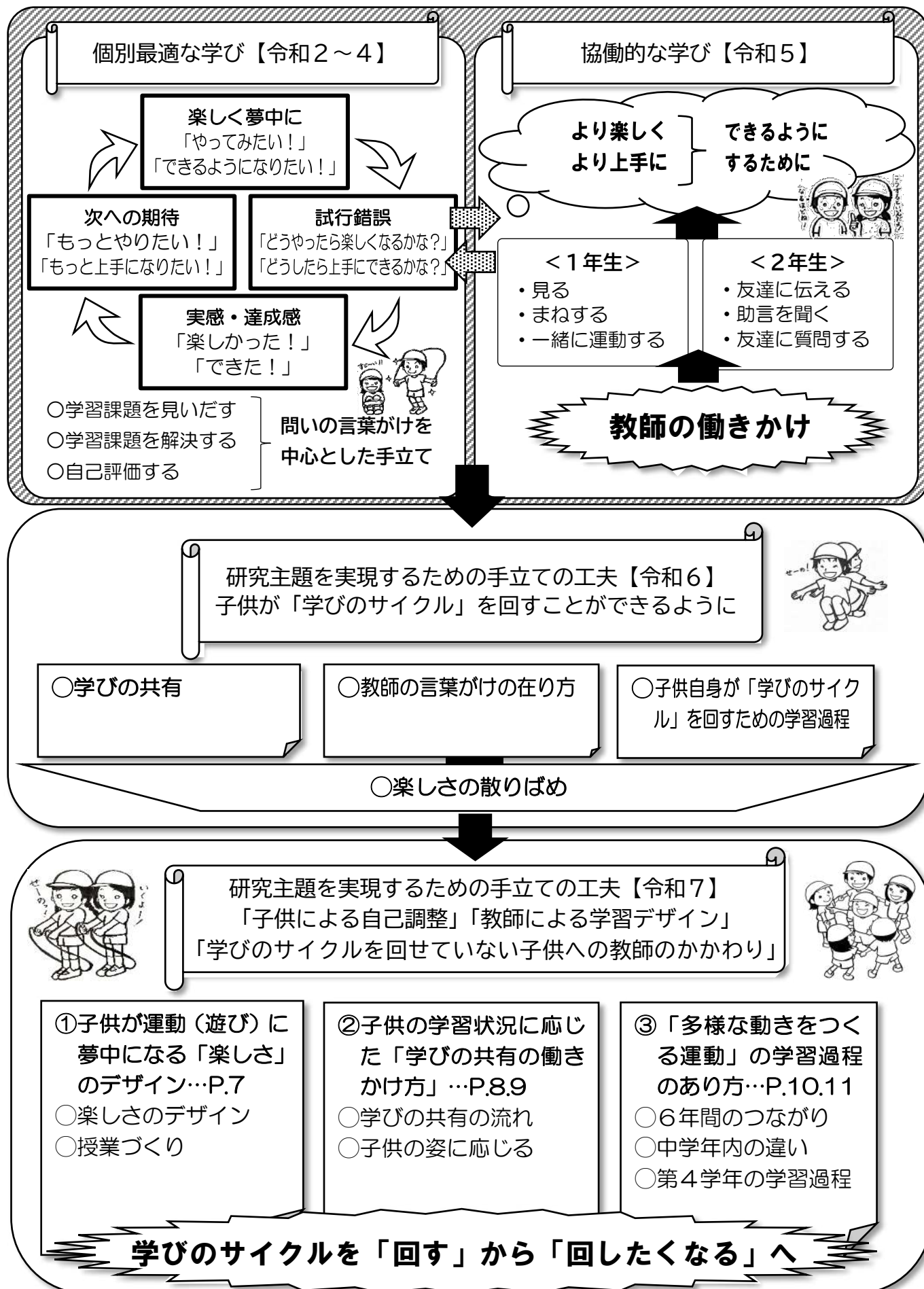
(3) 研究の方針

○昨年度の研究成果を踏まえ、「自立した学習者」を育てる体育の授業研究を充実させ、子供たちの「質の高い深い学び」の実現を目指す。

○子供による自己調整及び教師による学習環境のデザインの在り方、学びのサイクルを回せていない子供（飽和・停滞）への教師のかかわり方、「自ら学び続ける力」の習得状況の検証等、昨年度の課題に対する考えや改善策について、授業研究を通して明確にする。

○各領域部会の正副部長が、本研究会の研究を充実・発展させるための手立てを考え、議論することにより、本研究会の運営に参画し、自分たちの研究に責任をもち、主体的に推進していこうとする風土を醸成し、東京都の小学校体育指導の更なる向上を目指す。

Ⅱ 多様な動きをつくる運動（遊び）部会の研究
 <研究構想図>



多様な動きをつくる運動（遊び）部会 実証授業

1 本部会における研究主題の捉え方

本部会では、「自ら学び続ける力を身に付けた子供」を「子供自身が運動（遊び）を自己決定し、仲間とかかわり、試行錯誤しながら満足するまで運動（遊び）に取り組み、次の運動（遊び）に向かっていく姿」と捉えている。

子供が自ら学び続けていくためには、子供が「やってみたい」「できるようになりたい」と思い続けることが大切である。

そのために、教師は子供の姿や動きの変化を丁寧に見取り、働きかけを見直し、仲間とかかわりの中で生まれる子供の「学びのサイクル」を支える必要がある。子供が「できた！」という実感をもち、仲間とかかわりを通して新たな課題に気付くことで、振り返りが次の活動への意欲につながるような学びの在り方を、多様な動きをつくる運動（遊び）を通して明らかにしていく。



2 研究の重点

本研究では、「多様な動きをつくる運動（遊び）」において、子供が「自ら学び続ける力」を育てることを目指している。そのために、次の3つの手立てに重点を置いて授業づくりを行っていく。

（1）子供が運動（遊び）に夢中になる「楽しさ」のデザイン → 「楽しく夢中に」・「次への期待」

子供が主体的に活動へ向かっていくためには、活動の中に夢中になれる「仕かけ」を丁寧に組み込むことが大切である。子供が「やってみたい!」「もっとやりたい!」と自然に思えるような「楽しさ」を教師が活動に組み込むことが、学びの出発点となる。そのためには、下記のような要素を活動全体の中に散りばめていく必要がある。

- ・子供の関心を引くような導入の仕かけ（準備や導入の工夫）
- ・活動中に「できるようになりたい」「もっと工夫したい」と感じられるような運動（遊び）や活動の構成
- ・終わったあとに自分の考えや行動を振り返って見つめ直すこと（メタ認知）ができるような振り返りの工夫

このような「楽しさ」のデザインを基に活動を構成することで、子供は運動（遊び）に没頭し、自然と学びに向かう姿が生まれると考える。

（2）子供の学習状況に応じた「学びの共有」の働きかけ方 → 「試行錯誤」

子供の学びは、常に目に見える形で表れるとは限らない。特に運動（遊び）の場面では、子供自身が気付いたことを言葉にすることが難しいこともある。だからこそ、教師は子供の姿や動きの変化を丁寧に見取り、その子供に合ったタイミングや形態での言葉がけや仲間とかかわる場面を設定することで、子供の学びを広げていく必要がある。

「学びの共有」とは、授業の終わりにみんなで振り返る時間だけでなく、活動中の何気ないやりとりの中にも存在する。教師が意図的に問いかけたり、子供同士の気付きが生まれる環境を整えたりすることで、他者の考えに触れる機会となり、自分の考えを再構築していくことができる。

（3）中学年における「多様な動きをつくる運動」の学習過程の在り方 → 「実感・達成感」

中学年では、低学年に比べ「動きを工夫する」「仲間とかかわりながら活動をする」といった学びの質が一層高まっていく。そのため、「多様な動きをつくる運動」でも、活動の段階に応じて子供自身が課題を捉え、仲間と考えを出し合いながら運動をよりよくする過程を明確にしていくことが求められる。特に中学年では、下記のような流れを大切にしながら、学習過程を組んでいくことが効果的である。

- ・どんな動きができるようになりたいのかを自分なりにイメージすること
- ・自分で考えたり、仲間と相談したりして工夫を加えて試すこと
- ・振り返りで自分たちの工夫を言語化（発言・記述）して共有すること

こうした「過程に着目した学び」を育むことで、運動（遊び）の面白さだけでなく、「考えること・振り返ることの楽しさ」も感じられるようになる。

この3つの手立ては、「楽しく夢中に → 試行錯誤 → 実感・達成感 → 次への期待」という学びのサイクルを自然に促すものである。このサイクルの繰り返しの通して、「自ら学び続ける力」を身に付けていくと考える。

3 部内授業・夏季合同研究会より

部内授業では、参観者から「子供が夢中になって活動している」「教師の問いかけによって学びが循環している」などの意見を多くいただき、研究主題である「自ら学び続ける力を育てる」子供の姿が一定程度見られたことが成果であった。一方で、夏季合同研究会では、研究をさらに深めるための課題も見付かった。第1に、学びのサイクルを支えるうえで「仲間とかかわる」視点が十分に表現されていない点である。子供が試行錯誤する過程で、仲間とのかかわりを通して考えを広げたり、動きを修正したりする姿を明確にする必要がある。第2に、教師の働きかけや学習環境のデザインを、学びのサイクルの各段階と関連付けて整理することが求められた。また、「楽しさの設計図（デザイン）」の活用については、授業改善に生かすツールとしての有効性が認められた一方、形式的な使用にとどまらず、授業者自身が子供の姿をもとに授業を振り返り、手立てを修正していく「思考の道具」としての活用が期待される。これらの指摘を踏まえ、実証授業では、子供が「自ら学び続ける力を身に付けていく姿」を焦点化し、教師の言葉がけや場の設定を通して学びを支える手立てを明らかにしていく。

4 「自ら学び続ける力」の習得状況の検証

実証授業では、子供が「学びのサイクルを自ら回す姿」を具体的に捉え、どのような支援や学習環境がその育成に有効であるかを明らかにしていく。検証の観点は以下の三点である。

- (1) 子供が運動（遊び）に夢中になる「楽しさ」のデザイン → 「楽しく夢中に」「次への期待」
・教師の授業計画に組み込まれた楽しさの散りばめや言葉かけが、子供が夢中になって運動に取り組んでいるか。
- (2) 子供の学習状況に応じた「学びの共有」の働きかけ方 → 「試行錯誤」
・友達の動きや考えを取り入れ、自分の動きを工夫したり、助言を通して学びを広げたりしているか。
- (3) 中学年における「多様な動きをつくる運動」の学習過程の在り方 → 「実感・達成感」
・授業中の子供の姿、学習カードの記述、授業映像の分析などを通して、子供が自らできるようになりたい動きを明確にしたり、それをどうやったらできるようになるかを考えたりしているか。

5 学習指導案

- (1) 実証授業実施校等

葛飾区立よつぎ小学校

第4学年2組 児童：26名 指導者：主任教諭 五十嵐 渉

- (2) 単元名 多様な動きをつくる運動「よつぎプレイパークで運動しよう」

- (3) 単元の目標

知識及び運動	多様な動きをつくる運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、体のバランスをとる動き、体を移動する動き、用具を操作する動き、力試しの動きをし、それらを組み合わせることができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	自己の課題を見付け、その解決のために運動の行い方を選んだり、友達と一緒に工夫したり、気付いたことや考えたことを友達に伝えたりすることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。

(4) 単元の評価規準

知識・技能	1 多様な動きをつくる運動の行い方について、言ったり書いたりしている。 2 体のバランスをとる動きをすることができる。 3 体を移動する動きをすることができる。 4 用具を操作する動きをすることができる。 5 力試しの動きをすることができる。 6 基本的な動きを組み合わせる動きをすることができる。
思考・判断・表現	1 自己の課題を見付け、その課題を解決するために様々な運動の行い方を選んだり、友達と一緒に工夫したりしている。 2 多様な動きを身に付けるための運動の行い方について、考えたことや見付けたことを友達に伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	1 多様な動きをつくる運動に進んで取り組もうとしている。 2 順番やきまりを守り、誰とでも仲よくしようとしている。 3 用具の準備や片付けを、友達と一緒にしようとしている。 4 場や用具の使い方などの安全に気を付けている。 5 友達の考えを認めたり、互いの気持ちを尊重し合ったりしようとしている。

(5) 子供の実態

本学級の子供は、その多くが体育の学習に前向きで意欲的に取り組む姿が見られる。今年度の本領域の学習は、3つの小単位を含む13／15時間の学習に取り組んでいて、様々な動きに取り組み、その幅を広げようとしている。また、それぞれの小単位において、一貫した学習過程を踏むことで、6～7割程度の子供は、自ら学び続ける力を段階的に身に付けてきている。しかし、3割程度の子供は、自分にとって難しいと判断した際に、粘り強く試行錯誤することに関して、自ら学びのサイクルを十分に回すことが難しいと感じる様子も見られる。友達の運動のこつやポイントを聞くことで自分の動きが改善する経験を積み始めた子供の姿が増え始めているので、そのような子供の姿を共有しながら、自ら学び続ける力を、仲間とともに身に付けていく姿に繋げていく。多様な動きをつくる運動のゴールの姿として、「できるようになりたい」「上手になりたい」と運動に夢中になって取り組み、一人一人が自ら「学びのサイクル」を回すことができるように学習を進めていく。

(6) 研究主題を実現するための手立ての工夫

①子供が運動（遊び）に夢中になる「楽しさのデザイン」 → 「楽しく夢中に」・「次への期待」

子供が夢中になって運動（遊び）に取り組むためには、様々な場面に楽しさを散りばめ、教師の意図的な環境設定や仕かけを行っていくことが必要である。

1 準備運動

- 心と体のスイッチオン
- 音楽の活用
- 声を出す機会
- 友達と関わりのある動き
- ペアやグループ、円などの隊形
- ジャンプ、スキップ、ダイナミックな動き



3 「体のバランスをとる運動」

「体を移動する運動」「力試しの運動」
「基本的な動きを組み合わせる運動」

- 短い指示や説明して、まず「やってみる」
(くるっとじゃんけんの場合)
2人組を作ります。♪くるっとじゃんけん
じゃんけんて回ります。ほい！で体じゃ
んけんをするよ。
ではやってみるよ！せーの！
- 歌遊びの活用
歌の中に身に付けたい動きを取り入れ、
楽しさを味わいながら運動する。

「幸せなら手を叩こう」(座る・立つ)
♪幸せなら手を叩こう ♪幸せなら手を叩こう
♪幸せなら 背中をくっつけてー♪
♪ほら2人で立って(座って)みよう せーの！

- 楽しい雰囲気のまま指示を伝える。
「♪お友達を変えて・・・」
「♪〇人組、〇人組」など

詳しくは
「シン運動遊び例集」
をご活用ください。




6 振り返り

- 今日の学びを言語化
今日考えたことや学んだこと、友達の良い
ところなどを全体で共有する。
ねらいに合った児童を紹介する。



- 次時の見通しをもつ
「次の時間はこんなことをやりたいな！」
と期待をもって終わりましょう。



学習の流れ

0
事前準備（環境設定）

1
準備運動をする

2
学習のめあてを
確認する

3
「体のバランスをとる運動」
「体を移動する運動」
「力試しの運動」
「基本的な動きを組み合
わせる運動」
の中からできるようにな
りたい運動を選んで取り
組む

4
「用具を操作する動き」
「基本的な動きを組み合
わせる運動」
に用具を選んで取り組む

5
片付け 整理運動をする

6
振り返りをする

0 夢中になって運動できる 環境設定（世界観づくり）

- ワクワクするテーマ設定
「〇〇ブレイパーク」「〇〇ランド」「〇〇タウン」
「〇〇忍術学園」など



- 掲示物や場の設定
「〇〇ヘレッツゴー！」などの合言葉の活用
まわからの動きの獲得
「忍者修行をするよ」
「乗り物に乗っていくよ」など




3～4活動と活動のつなぎ

- 体じゃんけんの活用
用具を取りに行くのも楽しく。
体じゃんけんをして負けた人から用具を
取りに行く。
⇒人数が集まらないように安全面に考慮

4 「用具を操作する運動」

「基本的な動きを組み合わせる運動」

- 自己決定ができる多種多様な用具



- 子供の姿で共有
・〇〇さんはこんなことをしていたよ。
・△△さんは□□さんにこんなアドバイスを
していました。
・××さんこつは何がある？など

・やっていることがみんなに
紹介された！
・〇〇さんをまわしてみよう！
・私も紹介して欲しい！

- 合言葉を活用した称賛
「せーの パンパンナーイス！」
● 「できるようにになりたい動き」に存分に
取り組める時間設定

本部会では、より多くの教師が意図的な環境設定や仕かけを行い、子供が夢中になって運動（遊び）に取り組めるように、授業づくりに活用できる資料の作成に取り組んでいる。

②子供の学習状況に応じた「学びの共有」の働きかけ方 → 「試行錯誤」

「学びの共有」とは、学びのサイクルを自分の力で回すことが難しい子供に対して、教師が様々な関わりを通してそのサイクルを回すことができるようにすることである。共有する姿や動きは教師のねらいによって異なる。授業内でねらいに沿った動き・学び方をしている子を共有していくことが大切である。また、小単元の前半・後半によっても変わってくる。「学びの共有」の形態として全体・小集団・個での共有を考えている。全体とは学級全体、小集団とは共通する課題をもっている子供たち、個とは教師と子供のかかわりを表す。

ア、「学びの共有」の流れ

小単元前半では、「学びの共有」を全体で行うことが多い。一人一人が学びのサイクルを回せるように、全体で共有を行うためである。小単元後半では、「学びの共有」を小集団や個で行うことが多い。一人一人の学びのサイクルによって、共有する内容が異なるためである。

時	小単元前半	小単元中盤	小単元後半
ねらい	動きとの出会い まずはやってみる	動きの幅を広げる こつを見付ける	友達の動きを見る、まねする もっとやってみよう動きに 取り組む
学びの 共有	全体 小集団・個		

イ、子供の姿に応じた「学びの共有」

子供が学びのサイクルを回すことができるように「学びの共有」を必要としている子供の姿や動きの変化を見取り、それに応じて、共有する内容や方法を柔軟に選択することが大切である。

具体的な姿の例として、小単元の前半では、主に動きのこつや安全面について全体で共有を行うことが多い。後半に進むにつれて、子供が試行錯誤する姿など、学びのサイクルを回している姿を小集団で共有することが多い。動きが停滞している子供に対しては、直接的な指導をしていく場合もある。

(小単元前半イメージ)

めあて	できるようになりたい運動を見付けよう		
ねらい	動きとの出会い、まずはやってみる		
共有したい 子供の姿	いろいろな動きに挑戦している子供		
授業中の 子供の姿	・ 全体的に子供の動きが単純で、動きに広がりがない。	・ 一部の子供にのみ、動きの広がりが見られる。	・ やりたい運動が見付からず、動きが止まっている。
共有の内容例	「〇〇くんがこんな動きしてたよ。できそうかな？」 「〇〇さんはどんなことやっているかな？動きを見てみよう。」		
共有の形態	全体 	小集団 	個 

(小単元中盤)

めあて	できるようになりたい運動に取り組もう		
ねらい	動きの幅を広げる、こつを見付ける		
共有したい子供の姿	こつを意識している子供		
授業中の子供の姿	・全体的に子供がいろいろな動きをしているが、こつを意識できていない	・友達と同じ動きをしているが、双方とも動きができていない。または、一方だけできていない。	・運動に飽きている。 ・動きができない。
共有の内容例	「〇〇さんは、なんで上手にできるのかな？」 「できるためには、こつを意識することが大事なんだね。」		
共有の形態	全体 	小集団 	個 

(小単元後半)

めあて	できるようになりたい運動に取り組もう		
ねらい	友達の動きを見る、動きのこつをまねをする		
共有したい子供の姿	友達の動きを見たり、動きのこつをまねしたりして できるようになりたい動きをしている子供		
授業中の子供の姿	・友達に目を向けるなどの学び方が定着していない。	・複数人でいろいろな動きに挑戦しているが、こつを意識できていない。	・一人での運動に飽きて動きが停滞している。 ・こつを意識できていない。
共有の内容例	「なんでその動きをやってみようと思ったの？」 「〇〇さんの真似をしたから、できるようになったんだね。」		
共有の形態	全体 	小集団 	個 

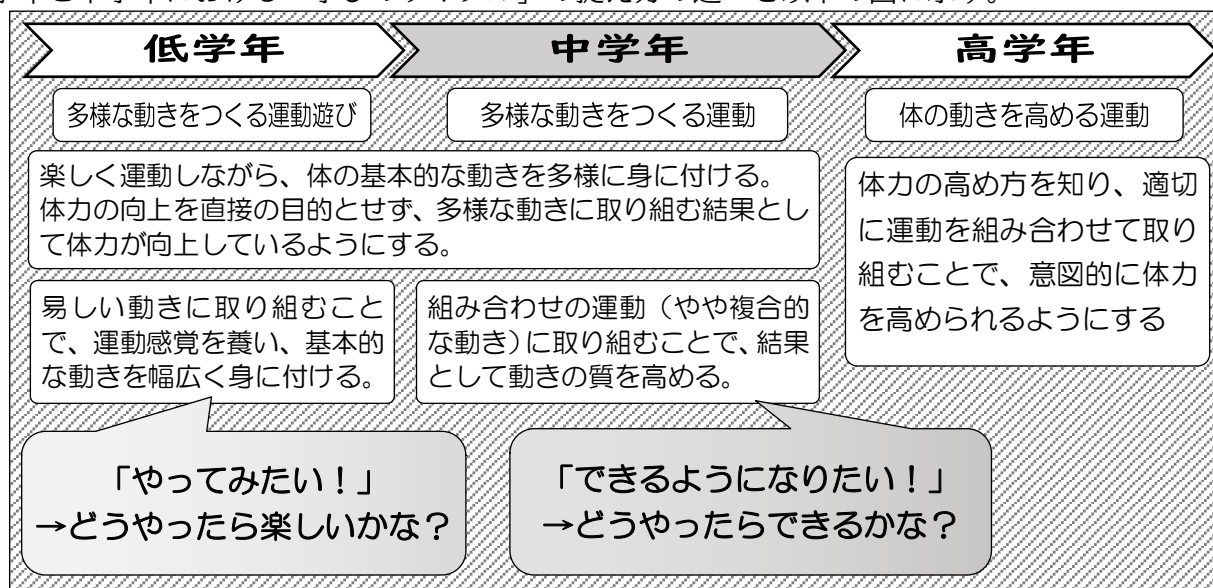
※学びの共有には、教師対子供だけでなく、子供対子供の共有もある。友達と友達が動きやこつをスムーズに伝えることができるように、教師は、友達同士をつなぐ言葉がけを行っていく。

(参考資料：R5・R6 実証授業指導案)

③中学年における「多様な動きをつくる運動」の学習過程の在り方 → 「実感・達成感」

ア、6年間の内容の系統性

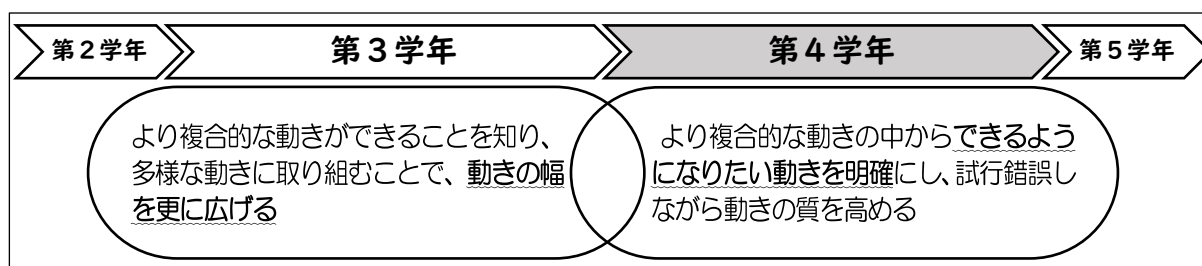
6年間の体づくり運動の系統性から、それぞれの学習内容やねらいの違いを示す。また、低学年と中学年における「学びのサイクル」の捉え方の違いを以下の図に示す。



イ、中学年における第3学年と第4学年の主なねらいの違い

本部会では、中学年の2年間でも発達の段階に差が見られると考えている。そのため、第3学年と第4学年では、学習過程やねらいを変えていく必要があると考えた。

例えば、第3学年では、遊びの要素を取り入れた低学年での指導を引継ぎつつ、基本的な動きを組み合わせる運動を取り入れることで動きの幅を広げていく。また、第4学年では、第3学年で経験した動きを基に、より「どうやったらできるようになるか」といった高学年のような課題解決的な学習の要素を取り入れていく。もちろん、子供の発達段階は学年で明確に分かれるわけではないが、大まかな傾向として捉えることで、子供がどのような学習課題をもつかの手立てにできると考える。

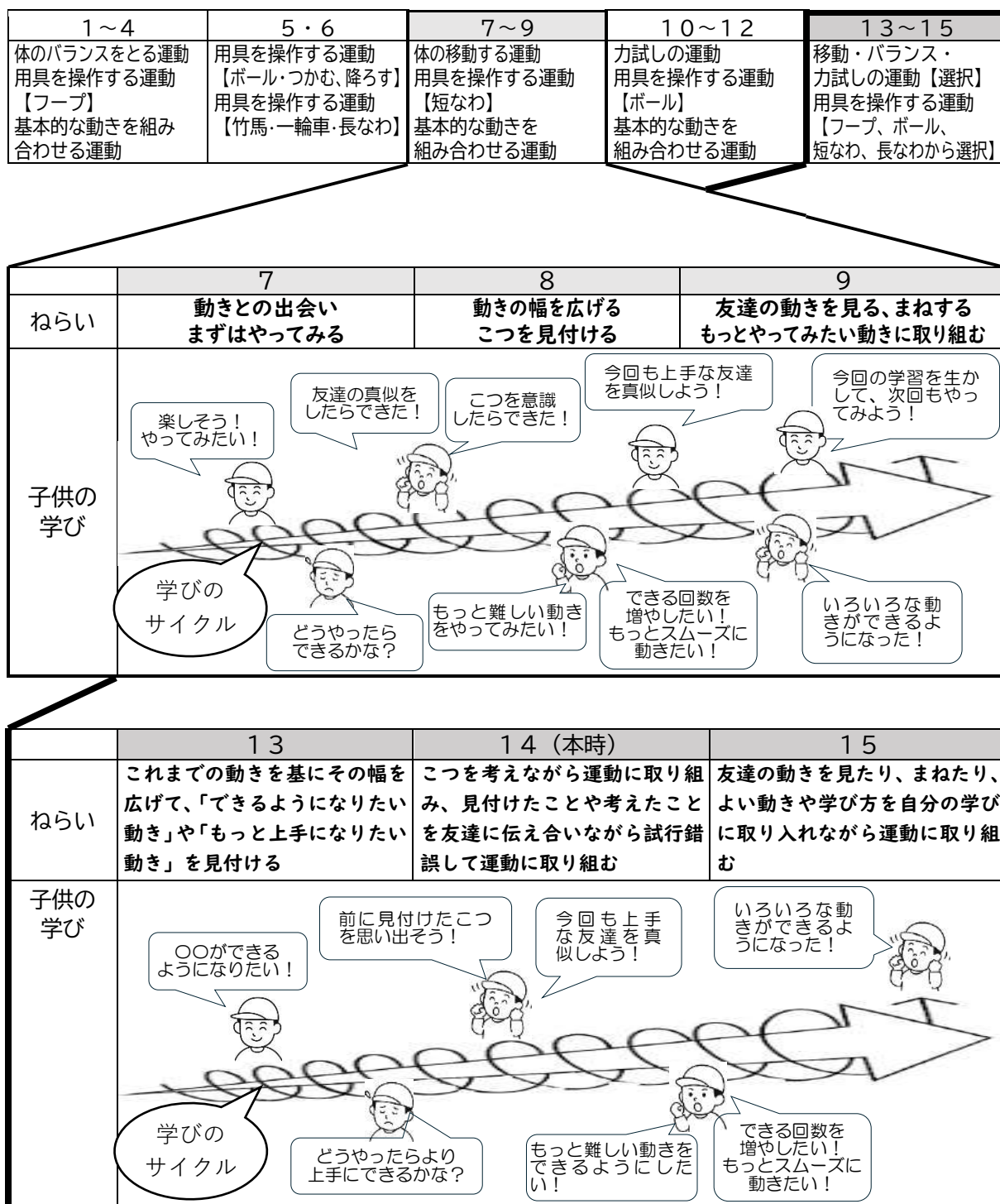


今年度は4年生での実証授業なので、子供が自ら「できるようになりたい動き」を明確にして取り組んでいるかや、それを「どうやったらできるようになるか」考えているかが大事になるね。

ウ、第4学年における学習過程

小単元を一つの課題解決の学びのサイクルと位置付け、その学びのサイクルを一年間の大単元で繰り返し経験することによって、自ら学び続ける力が段階的に身に付くと考える。

また、1単位時間の中でも「やってみる（学習課題を見いだす）→試行錯誤する（学習課題を解決する）→振り返る」といった小さな学びのサイクルを回し続けることが大切である。



(7) 本時の学習 (第14時/全15時)

①本時のねらい

○多様な動きを身に付けるための運動の行い方について、考えたことや見付けたことを友達に伝えることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】

○友達の考えを認めたり、互いの気持ちを尊重し合ったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】

②本時の展開

学習活動	○教師のかかわり ◎配慮の必要な子供への支援 □評価 (方法)	本時における 「自ら学び続けている 子供の姿」
1 準備運動をする。 ♪ 勇気100%	○心と体のスイッチオンができるように、 曲に合わせて体を動かすようにする。	
2 学習のめあて、流れを確認する。 ㊦ できるようになりたい動きやもっと 上手になりたい動きに取り組もう！	発問 「今日は何ができるようになりたい？」 「どうしたら、できるようになる？」 ○学習の見通しをもたせるために、学習の 流れと本時のめあてを掲示する。 ○前時の児童の姿や振り返りカードの記 述から、本時のねらいに即した内容を紹 介する。 ○進んで場や用具を準備したり、安全に気 を付けたりしている児童を称賛する。 ○できるようになりたい運動を選び、繰り 返し粘り強く取り組む姿を称賛する。 ○友達と励まし合い、運動に進んで取り組 んでいる子供を称賛する。 ○運動のこつを考え、そのこつや運動のポ イントを友達と共有しながら、より上手 にできるようになろうとしている子供 を称賛し、その学び方を共有する。 ○子供が次の活動に移れるように、音楽を 使用して片付けを促す。 ◎上手な友達の動きをまねしたり、動きの ポイントを具体的に助言したりする。 □友達の考えを認めたり、互いの気持ちを 尊重し合ったりしている。(発言、行動)	
3 「バランスをとる運動」「移動する運 動」「力試しの運動」「基本的な動きを 組み合わせる運動」の中からできる ようになりたい動きを選んで取り組 む。 (1) みんなで一緒に取り組む。 (2) 自由を選択する。 <やってみる時間> ↓ <学びの共有> ↑ <もう一度やってみる時間>		・「できるようになり たい」「もっと上手 になりたい」運動を 選び、試行錯誤して いる。 ・教師や上手な友達 に自ら助言を求め、 自分の運動に取り 入れようとしている。 ・上手な友達を見付 け、その学び方を進 んでまねしている。
4 「用具を操作する運動」「基本的な動 きを組み合わせる運動」の中からで きるようになりたい動きを選んで取 り組む。 (1) フープ (回す・転がす) (2) 短なわ、長なわ (跳ぶ) (3) ボール (投げ上げる) (4) 組み合わせ (用具+移動) (用具+バランス) (用具+用具) <やってみる時間> ↓ <学びの共有> ↑ <もう一度やってみる時間>	○進んで用具を選び、すぐに運動に取り組 んでいる子供を称賛する。 ○「できるようになりたい」「もっと上手 になりたい」運動を選んで子供を称 賛し、全体に共有する。 ○子供一人一人の課題を適切に見取り、そ の課題に応じた形態で、(全体・小集団・ 個) 学びを共有する。 ◎共有した内容の理解を深めるために、運 動のポイントや学び方について具体的 な言葉で助言する。 □運動の行い方について、考えたことや見 付けたことを友達に伝えている。(発言、 行動)	・「次は○○ができる ようになりたい！」 というように、自ら 課題を修正してい る。 ・運動のこつやポイ ントについて考え、 自己調整しながら 運動している。
5 後片付け、整理運動をする。	○落ち着いてクールダウンし、使った部位 をほぐすように言葉をかける。	
6 振り返りをする。	○本時のねらいに沿った振り返りができ るように、ねらいに即した問いの言葉が けを行う。	

(8) 指導資料の充実

昨年度に引き続き、シン・運動遊び例集の作成・改訂を行っている。また、中学年で取り扱う「基本的な動きを組み合わせる運動」の例集も作成している。

実際の授業の中で活用できるように、「バランス」「移動」「力試し」の運動(遊び)を視覚的にも分かりやすくなるように作成している。子供が「やってみたい」「もっとやってみたい」と夢中になれる「楽しさ」のデザインの一つとして、たくさんの方にご活用いただきたい。

バランス → 移動 → 力試し → 組み合わせ

回る

寝転ぶ・起きる

座る・立つ

バランスを保つ

1-④ 人工衛星

<ポイント>

- 腰を落とす
 - ひざを曲げる
 - 足に力を入れる
 - ピタッと止まる
- 人数：5～6人

問い

- ・どうやったら動かないかな？
- ・自分は動かずに相手を動かすためには、どうすればよいかな？



称賛

- ・腰をぐっと落としていいね！
- ・「人工衛星」を元気よく言おう！



助・支

- ・膝をぐっと曲げてみよう。
- ・歌に合わせてジャンプしてみよう。



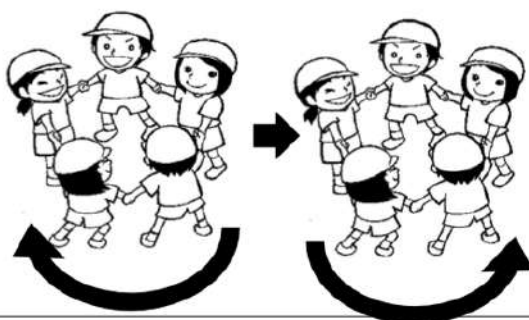
安全

- ・友達とギュッと手をつなごう。
- ・倒れそうなときは無理せず一歩前に出よう。



アレンジ

- ・反対に回ろう
- ・回らないでジャンプしよう



多様部会HPで、授業資料をUPしています。

東京都小学校体育研究会 多様

検索



多様部会
Google ドライブ
「資料配布」



本部会の研究
が全て HP に
アップされて
います！

【多様な動きをつくる運動（遊び）指導資料】



「H25・26 運動遊び例集」



「R1 授業ヒントシート」「R1 多様ガイドブック」「R3 イラスト版学習過程」
「R5・R6 シン・運動遊び例集」

※令和5年度に、大幅リニューアルを行いました。運動遊びを授業ベースで行うことができるように、一つ一つの運動例を図解するだけでなく、YouTubeでも紹介するようにしました。令和7年度も、運動例を追加していきます！

【多様な動きをつくる運動（遊び）研究資料】

- ・研究内容「実証授業資料（H28～R6）」
- ※部会の研究内容をまとめたものとなります。研究の経過や継続している内容などもご覧いただけます。
- ・H28…4年生（短なわ） ・H29…2年生・3年生（ボール） ・H30…3年生…（フープ）
- ・R1…4年生（ボール・フープ・短なわ） ・R3…2年生（短なわ） ・R4…4年生（フープ）
- ・R5…1年生（短なわ） ・R6…2年生（ボール・フープ・短なわ）



「都小体研多様な動きをつくる運動（遊び）領域部会で一緒に研究しませんか？」

本部会では、子供が「楽しく基本的な動きを身に付ける」ことができるように、遊びを開発したり、授業改善を行ったりしています。いつでも新規部員を募集しています。一緒に研究をしませんか？興味がある方は、下記までご連絡ください。

東京都小学校体育研究会 多様な動きをつくる運動（遊び）領域部会

部長 東久留米市立第三小学校 中本 隼介 E-mail shun.beck@gmail.com TEL 042-471-0104